

健康長寿社会実現へ福山市 高齢フレイルチエック会

60—80代が体の状態確認

健康長寿社会の実現を目指す福山市は1月13日、高齢者の「フレイル(虚弱) チェック会」を初めて開催した。同市千代田町のエフビコアリーナふくやまで行われたチエック会には、六〇—八〇代の二三人が参加した。写真上。



運営を手伝うフレイルサポーター二人も参加。開催に当たり、同市政策顧問を務める大内尉義・虎の門病院(東京)顧問は「高齢者の機能の衰えは年齢のせいではなく、きちんと運動し、栄養を取れば元の状態に戻る。そのため



のチエック会だ」と強調した。チエック会では両手で輪を作り、ふくらはぎの一番太い部分を囲めるかどうかを確認したり、栄養面・口腔・運動・社会性など一項目からなる「イレブンチエック」に回答した。かみ締めた奥歯に四本の指を当てて、かむ力を確認する「咬筋触診」も行った。片足で立ち上がるテストや、ふくらはぎの周囲の測定・握力測定・手足の筋肉量測定・写真下にも実施。参加者はサポーターの手を借りながら、自分の体の状態を確認していた。この日の参加者は半年後に行われる第二弾のチエック会にも参加し、改善状況を確認する。

全国でフレイルチエックの

指導に当たる飯島勝矢・東京大高齢社会総合研究機構教授は、「フレイルチエックによって筋肉の衰えを『見える化』できる。今日の指導を基に明日から頑張ってください」と激励した。

20日には同市駅家町の北部市民センターでもフレイルチエック会を催した。同市では3月までに計六回のチエック会を開催する予定。

新型コロナワクチン接種へ 福山市が接種対策室設置 事業者への支援も追加

福山市の枝広直幹市長は1月21日の記者会見で、同市での新型コロナウイルスウイルス感染拡大の状況について説明した。写真。同月7日の会見時に比べ、病床のひっ迫やPCR検査陽性率などの指標は、「おおむね改善している」と



しながらも「入院用病床は半数近くが埋まっており、決して安心していない」と気を引き締めた。

19日時点での感染状況についても説明。1月1日以降は家庭などでの感染が多かったが、その感染源は「他の地域での感染」と「職場」が過半数を占めた。これについて枝広市長は「飲食店」での感染は少ないが、他の地域での感染は友人との会食が含まれる」とした。

その上で市民に対して「医療崩壊を避けるため自覚のある行動を」と呼び掛け、緊急事態宣言対象地域との往來を控えることや、人との接触や会食の機会を減らすことを求めた。会食をする場合は少人数、短時間で終え、感染防止対策を施した店を利用するよう要望した。

またワクチン接種事業を円滑に行うため、保健予防課内に「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置。21日から業務を開始した。課長以下七人の体制で、ワクチン接種に向けた関係機関との調整、市民からの相談体制の構築などに当たる。

枝広市長は「今後の状況によって対策室の強化を迅速に行う」との考えを示した。

さらに、事業者の感染症対策への支援を追加。すでに発表した感染拡大防止のための設備導入経費の一部補助(予算額九〇〇万円)に加え、新たに飲食店が購入しているマスクや消毒アルコールなど消耗品の経費も補助する。補助率は四分の三で上限一〇万円。予算の二億五〇〇〇万円は予備費を財源に充てる。

またテレワークを推進する企業に対し、会場にビジネスホテルなどを利用した際に一回三〇〇円を助成する支援事業も二次募集を受け付ける。同市の新型コロナウイルス感染者数は25日現在で延べ四八九人。